

主電動機形式	MT 6 A
主電動機出力(1時間定格)	235 KW
” 回転数(全周磁)	635 r. p. m.
機関車総出力	915 KW
歯 車 比	18:78=1:4.33
引 張 力(1時間定格)	10,000 kg
最大運転速度	65 km/h
制御方式	電磁空気単位スイッチ式
制御電圧	直流 100 V
ブレーキ装置	EL 14 A 空気ブレーキ

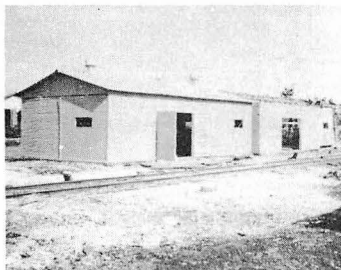
2 主要な構造

(1) 車体は両端運転室箱形で、2 個の心ざらで台車の心ざらに支持されている。出入台のある機関車は出入台の分だけ車体全長は短い。これに伴って車体内機器の配列も異なるが、共通なところは抵抗室を車体の側窓寄りに設け、機械室内の中央に通路を設け両運転室に通じていることである。車体台わくにはみぞ形鋼を用い、これに柱立てして、みぞ形鋼の上部から外板を張ってある。抵抗室の通風は外板を凸形にした下部および抵抗室床に設けた数個の穴からの自然通風によっている。側窓の形状も国鉄の EF 形機関車と違った形状で一見して国鉄形と判別できる。

(2) 台車は中間連結式の 2 軸台車で、台車わくは板台わく組立式を用い、主電動機はつりかけ式で歯車単独駆動式である。自動連結器は台車の前後に取付け、各台車は中間連結装置により結ばれている。ばね装置は各軸箱上に担ばねをおき、担ばねの両端をばねつりによって台車わくに支持している。また基礎ブレーキは抱合せ制輪子式である。(沢野周一)

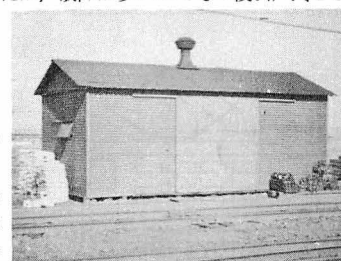
いどううわや 移動上家 季節貨物の出賃に対応して季節的に貨物上家の不足を補うために使用する組立式荷物おおいで、

その骨組みが鉄製のパイプであったところからパイプハウスと呼ばれてきたものである。最初試作品として造った 3 個は、骨組みは全部パイプであったが、26 年度以降購入のものは強度を増し、組み立てを容易にするため柱



1. 三六型移動上家

だけをパイプとし、他の骨組みは山形鋼を使用することにした。出入口は 26 年度購入分までは自動的に上げ下げできるスプリングシャッターを用いたが、故障が多いのでその後引戸式とし、さらに観音開き式のものとした。大きさは 3×6 間=18 坪のもの(これを三六型という)と、2×4 間=8 坪のもの(これを二四型という)とがある。なおこの上家は貨物保管庫の代用としても使用できるように側面には全



2. 二四型移動上家

部下見(壁に相当するもの)があり、出入口は鎖錠できるようになっている。組み立ては三六型で 8 ないし 9 人で 7 ないし 8 時間、二四型で 5 ないし 6 人で 4 ないし 5 時間でできる。(近藤

正弘)

いどうけいさつ 移動警察 警察官が交通機関の内部において犯罪の予防、捜査、犯人の逮捕等の職務を行うために乗車・乗船すること。

わが国に移動警察が制度として行われたのは大正 11 年以降で、当時内務省警保局長より関係庁・府県長官あてに発せられた「主要鉄道線路上における鉄道関係警察事項取扱に関する件施設の件依命通牒」(大正 11・2 内務省秘第 110 号)によるものであった。

終戦後、警察法(昭和 22・12 法律第 196 号)が施行されたが、同法には移動警察について触れるところはなかった。その後昭和 29 年警察法が全面的に改正された際、同法(昭和 29・6 法律第 162 号)第 66 条に、警察官が 2 以上の都道府県警察の管轄区域にわたって移動警察を実施する場合の職権行使についての規定が新たに設けられた。法令に移動警察に関することがらが規定されたのは、この第 66 条の規定が最初である。

国鉄においては、警察官が国鉄の列車、停車場および連絡船内で移動警察を実施することについて、鉄道業務と移動警察の職務との連絡・調整を目的として警察庁と協議を遂げ、昭和 29・11・12 公示第 310 号「日本国有鉄道と警察庁との移動警察に関する協定」を結んだ。(岡本 勇)

いどうせん 伊東線 東海道本線熱海駅から太平洋岸にそって南下伊東駅に至る 16.9km の線。東海道線に属し線路等級は乙線である。

昭和 10・3 熱海から伊東に至る鉄道として熱海・網代間が開通し伊東線と命名され、昭和 13・12 伊東まで全通した。

この線は網代・伊東の温泉郷を控えているので、ローカル輸送のほか観光旅客輸送にも大きな役割をもっている。全線電車化され東京・伊東間直通運転するものもあり、週末には温泉列車が運転されている。(森 梯寿)

いどうとしょかん 移動図書館 鉄道 75 周年記念事業の 1 つとして昭和 22 年各地方鉄道管理局に設けられたもの。この図書館は従来あまり読書施設に恵まれない現場職員を対象とし、健全な思想のかん養、知識の向上をはかることが目的である。企画および備付図書の選定・購入・配付は本社が行い、運用は鉄道管理局長が行うことになっている。

昭和 31・6 までに本社から配付した図書の総冊数は 24 万冊。このほか各鉄道管理局では随時増備して管内を巡回し、備付の図書を広く職員の閲覧に供し、国鉄教養機関としての役目を果たしつつある。(川村徳治)

いどうへんでんしょ 移動変電所 (英) travelling substation 変電所の故障・修理・改造および変電所急設の必要ある場合に、所要の場所へ移動して使用するもので、変電所設備一式を鉄道車両またはトラック等に設備したものである。移動変電所は前記のように、その移動の方法によって鉄道車両を用いるものと、トラックを用いるものとの 2 種類に大別することができる。また変電所の種類によって配電用交流移動変電所と電鉄用直流移動変電所に大別することができる。

1 鉄道車両を用いた移動変電所 トラックにくらべて鉄道車両は大型であるから、変電所設備を積載するに便利である。特に直流変電所は設備機器が多いので、この点は有利である。また振動も少ないので長途の移動に適する。特にわが国の道路は悪く、至る所に橋梁があって大型トラックの通行をさまたげている現状では、この点で有利である。以上の理由とわが国の移動変電所のほとんどすべてが電鉄用である関係から、今までのところでは鉄道車両を用いたものが実際につくられて活躍し